

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1333
施設名	おおたかの空保育園
施設所在地	〒182-0004東京都調布市入間町2-28-33
法人名	社会福祉法人 桐仁会

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

SDGs ～ちきゅうのことをしろう！ちがうけど おんなじ～

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

子どもが身近にある公園の「ごみ」というものに興味を持ったことから「SDGs」をテーマに活動をする事を決めた。

また自然がたくさんある園の為に、ダンゴ虫やみみずがいる土を遊びの中で見つけていた。地球が元気になるにはどのようなものなのかが土になるのか考えるためにテーマに設定した。

## 2. 活動スケジュール

1, 地球フレンズのワーク

8月1回 10月2回 11月4回 12月2回 1月1回 2月3回 3月3回 令和7年8月～3月

2, ゴミ拾い

子どもが気付いた時に行く

3, 土について

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

電子黒板、投影機等を使用し土の中を見てみて「地球を守る土」とはどのようなものなのかを考えたり、グループワークを行うために机、椅子を購入し、グループ全員が座って話せる環境を整えた。

#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

「ちきゅうフレンズ」を用いて電子黒板で毎月1回ワークを行ったり教材を使用して世界のことやゴミが世界へ与える影響などについてグループで考えたり振り返りをするを楽しんだ。また学んだことを園内の子どもたちに啓蒙する活動を考え、ポスター作り等を行うことを計画した。

近隣の散歩先などのゴミ拾いを行った。プログラムにあるウミガメに思いを寄せて、川にあるごみの存在からゴミ拾いを行うことを楽しんでた。

SDGs コーナーを作り、SDGs の絵本の中で紙をどう作るのか子どもが疑問に思い月桃を使用し、月桃紙作りを行った。

土について投影機で観察したり、ミミズや虫を捕まえて観察してみた。また砂場の土、畑の土、堆肥で葉っぱや野菜くずを土の中に入れて、実験してみた。

##### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

ちきゅうフレンズを行うときには電子黒板を使用して行った。一つずつのプログラムが終了する度に振り返りを行う。特に「オーストラリアとみず」についてのプログラムでは意見がたくさん出ていて「かわにゴミをながさないようにしないと」「ちかくのこうえんにもすてたらだめだよ」などと話し、その興味からゴミ拾いを行う姿も見られていた。子どもからの話で様々な活動を広げていった。

かみづくりでは「月桃」「牛乳パック」を用いて行った。ミキサーを使用して紙を作った。「こんなにかみってつくるのたいへんなんだ」と話したり、「だからだいじにしないとね」と話したりしていた。つちづくりでは様々な土を投影機でみたことで「こんなにかわるんだ」「このつちはむしがいないんだね」と話していたので様々な実験を試してみた。実験をすると「どうやったらいいつちになるんだろう」と話す姿が見られていた。



## 5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

すくわくプログラムを行う中で子どもたちの地球に対する意識が変わったように感じる。今まではゴミが散歩先で落ちていても気にする様子ではなかったが「こんなにゴミがおちている」「ここにゴミをおとしていったのはだれなんだろう」など話して関心がある様子に変化してきていた。またプログラムの中で「ケニア」や「オーストラリア」等の国へ触れていて、自分たちが住む場所以外でも困っていることがある事、自分の身近な場所でも困っている事があることを知る事が出来た。

またこのプログラムを4歳児で行ったが様々な感情がでてくるこの時期にプログラムを通して「おもいやり」の気持ちを考えたりすることもあった。自分たちが住んでいる地球というものに興味をもってこの地球を守っていくためにはと身近な環境の中で考える姿が見られていた。このプログラムを行うことで資源についても考えることが出来た。月桃紙を作ったり、土の良さを考えて、実際に作ってみたり、実験してみたことをきっかけに興味広がった。子どもたちと共に保育者も一緒に学びが深まっていた。子どもの育ちもプログラムを通して客観的に見ることも出来た。

① りょうざん公園のごみひろいのあとで…  
「ちきゅうふれんず」



「ちきゅうふれんず」は、こどもたちが楽しく世界を学び身近に感じることで、自分で考え関心を持ち続けることを目的としたプログラムです。ペンギンのスカイと一緒に世界について学ぶ全三回+総集編の年間プログラム。(幼稚園・保育園のSDGsへの取り組みを支援する活動の一環としてご提供のものです)



② どんなせかいにしたい?  
(色々な世界があることを知り、みんなで“どんなせかいで生きたい”かを話してみました。)

③ そらぐみ SDGs オープン

自分たちが遊んだものの片づけ箱作成



生活素材あそび



かみってどうやったらつくれるの?~月桃紙つくり~



そらぐみ すくわくプロジェクト「SDGs」  
2026.1



① りょうざん公園のごみひろい  
「なんでこんなに(ごみ)おちているの?」



⑥ シンガポールとひとと 総集編を、これから取り組んでいきます。

SDGsとは、「持続可能でより良い世界を目指す」  
「ひとりひとりが自分の世界を広げていけるように、  
続いています」

④ ケニアといきもの



園庭やドルトン学園にあったごみをひろいにいきました。



⑤ オーストラリアとみず



野川にごみをさがしにいきました。が…「かわのなかのごみはひろえない…」どうしたらいいのかな。



# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1333
施設名	おおたかの空保育園
施設所在地	〒182-0004 東京都調布市入間町2-28-33
法人名	社会福祉法人 桐仁会

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

生き物に触れ、命の尊さを知る

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

- ・昆虫や爬虫類が好きな児が多い。
- ・クラスでメダカや鯉を飼っていた為、もう少し親しみを持ってほしいと思った。
- ・園庭や散歩先で捕まえた虫を虫かごに入れて観察するものの、なかなかうまく飼育することが出来なかった。
- ・生き物が好きなものの関わり方や力加減が分からず、昆虫の手足が取れてしまったり、虫同士を無理矢理戦わせ死なせてしまうことがあった。命の尊さや、昆虫や爬虫類も自分たちと同じ生き物であることを理解を深めてほしいと思い、このテーマにした。

## 2. 活動スケジュール

①生き物の世話、生き物探し

園庭や散歩に出掛けた時に行う

②生き物について触れる、調べる活動

11月(秋の遠足で多様性センターで生き物について考える)、2月(ワークシートを行い、水族館で実際に生き物を見たり触れたりする)

③ヤモリ、トカゲの観察日記を書く

冬休みの間、家でお世話をし観察を行う

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・園庭や散歩(自然の多い場所)に出掛ける機会を多くした。
- ・観察や飼育をしやすいよう、虫かごや水槽、飼育道具を購入した。また、ipadで撮影し、それらを投影機に写しみんな電子黒板にて共有した。
- ・ワークシートを行った際に、電子黒板を使って実際の映像や写真を見た。

## 4. 探究活動の実践

### <活動の内容>

- ・園庭や散歩に出る際には虫かごを持って出掛け、生き物探しを行った。捕まえた生き物を図鑑で調べ、飼育を行った。
- ・ヤモリやカナヘビの餌になる虫を調べ、自分たちで探した。
- ・ヤモリの観察を行い、脱皮中や冬の時期の身体の変化などを調べた。
- ・海の生き物や海の汚染問題などをワークシートで行い、実際に水族館や海へ行き実態を自分たちの目で確かめた。

### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

#### (活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

- ・捕まえたことで満足してしまい世話をせず死なせてしまうことや、むやみに触ってしまいストレスを与えてしまうことが多くあった。話し合いを行うと「自分たちもご飯を食べないと元気が出ないし、生きていけない」「自分たちもいっぱい体を触られたら嫌な気持ちになる」という意見が出た。それをきっかけに、自分たちで餌探しを行うようになり、むやみに触ることが減った。自分たちと同じように命があり、尊い存在であることに気付くきっかけになった。
- ・実際に海に浮かぶゴミを見て、ワークシート行った際に見た太平洋ゴミベルトを思い出し「この前見たゴミの海になっちゃうよ」「ゴミ箱があるのに、どうして海にゴミを捨てるんだろう？」と子どもたち同士で話す姿があった。また、海は他の国と繋がっていることから、戦争で使ったゴミも海を汚しているという意見が出た。そこから、戦争について考えるきっかけにも繋がった。



## 5. 振り返り

### <振り返りによって得た先生の気づき>

・初めは昆虫や爬虫類などの生き物に触れ、命の尊さを知ってほしいという思いがありすくわくプログラムを始めた。進めるにつれて、子どもたちの生き物への接し方や関わり方が変わり、自分たちと同じく命ある存在であることに気付くことが出来た。ヤモリやカナヘビの飼育をする上で話し合う時間も増え、様々な意見を出し合う良い機会になった。”ごはんを食べなければ生きていけない、ではごはんはどうする？”と話し合いをした際に「餌を買う」という意見ではなく「園庭や散歩先でごはんになる虫をみんなで探す」という意見が出たことや、冬休みの間に逃がしてしまうのではなく「自分たちでお世話したい」と言って家へ持って帰りお世話をする姿などから、自分たちの力で飼育するという気持ちが芽生え、責任感が強くなったように感じた。また、身近にいる生き物から海や世界に広がり、昆虫や爬虫類だけでなく様々な命ある物に目を向け、クラス全体で意見を出し合い考えるようになった。海が汚れる理由を考えた際に、「戦争で使った爆弾や壊れた物の破片も海に流れつきゴミになっているから、そのせいで海が汚れて海の生き物も生きれなくなっちゃう」「戦争は必要ないんだよ」という意見が子どもたちから出たりなど、海の汚染や戦争にまで目を向けて考えることが出来、とても良い経験になった。

## にじぐみ すくわくプログラム ～ 生き物に親しみを持ち、命の尊さを知る ～



すくわくプログラムを開始した6月頃は、園庭や散歩先の公園でダンゴ虫やてんとう虫など虫探しをして、捕まえることを楽しんでいました。図鑑で昆虫の主な生息場所や好きな食べ物を調べ、ただ闇雲に探すのではなく「アブラムシがいっぱいいる所にいる気がする!」「太陽が当たっている所にいると思う!」と生息していそうな場所の目星をつけて虫探しを楽しんでいました。

夏は暑い日が続き、外に出て虫探しをすることはなかなか出来なかったものの、登園途中で発見したカブトムシやクワガタの飼育や観察を楽しみました。クワガタと捕まえたバッタを無理矢理戦わせ、クワガタの角がバッタに刺さってしまいバッタが死んでしまったことがありました。その際に、みんなで一度話し合いを行い“生き物にも命がある”ということ“命の尊さ”について考える時間になりました。



秋になると、バッタやコオロギ、カマキリなどもたくさん出てくるようになり虫探しが盛り上がりました。「カマキリ飼いたい!」「みんなで育てたい」ということも多くなりました。カマキリの飼育をするに当たって「カマキリって何を食べるんだろう?」と疑問を持った子どもたちは図鑑で調べ、バッタを食べることを知りました。「可哀そうだけど、カマキリもごはん食べないと生きていけないもんね…」「僕(私)たちもお肉とかお魚食べてるよね」「命をいただいているから、ちゃんと“いただきます”しなきゃいけないんだよね」と自然の摂理について考えるきっかけになりました。



冬になるとカナヘビやヤモリ探しが盛り上がりました。可愛さのあまり触ってしまうことやしっぽを掴んで揺らして遊んでいることもあり、しっぽが切れてしまうことが度々ありました。また、エサをあげ忘れてしまう日々が続き、カナヘビの元気がなくなってしまうこともありました。一度みんなで話し合う時間を作り、自分たちも身体をバタバタ触られたら不快に思うこと、お腹が減っていたら元気が出ない生きていけないこと、お部屋が汚かったら嫌な気持ちになることを話すと「きっと、カナヘビも私たちと同じ気持ちだよ」と言って、それからは毎朝カゴの中を必ずチェックし、霧吹き、掃除、園庭や散歩先でエサになる虫を自分たちで探すことを欠かさず行うようになりました。生き物を育てることの難しさを知ったことで、以前よりもカナヘビやヤモリに親しみをもって大切に育てています。

